２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	赤岩　辰則
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを学びを通して就職・資格試験の合格を達成する。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容	
1回目	プロの職業人を目指すにあたって(3つの行動の原則):Hand-book of Life Style
2回目	学校生活で気を付ける事:Hand-book of Life Style
3回目	社会生活で気を付ける事①:Hand-book of Life Style
4回目	社会生活で気を付ける事②:Hand-book of Life Style
5回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
6回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
7回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
8回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
9回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
10回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
11回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
12回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
13回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
14回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
15回目	前期振り返り
準備学習 時間外学習	学習プリントの振り返り(レポート・アンケートなど)・・・・次の時間までに提出。 進路計画の作成。 イベント計画の作成。
評価方法	授業態度:40% 毎時間のプリント授業内評価として課題の提出と評価:60%

【使用教科書・教材・参考書】

Hand-book of Life Style
2023年度版　新社会人基礎力109

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	赤岩　辰則
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを学びを通して就職内定・資格試験合格を達成する。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容	
1回目	自分を成長させるキャリアパス：新社会人基礎力109
2回目	自分を成長させるキャリアパス：新社会人基礎力109
3回目	社会人基礎力を高める：新社会人基礎力109
4回目	社会人基礎力を高める：新社会人基礎力109
5回目	社会人基礎力を高める：新社会人基礎力109
6回目	社会人基礎力を高める：新社会人基礎力109
7回目	企業人として尊守すべき規範とは：新社会人基礎力109
8回目	企業人として尊守すべき規範とは：新社会人基礎力109
9回目	企業人として尊守すべき規範とは：新社会人基礎力109
10回目	企業人として尊守すべき規範とは：新社会人基礎力109
11回目	社会人として自分を守り高める：新社会人基礎力109
12回目	社会人として自分を守り高める：新社会人基礎力109
13回目	社会人として自分を守り高める：新社会人基礎力109
14回目	社会人として自分を守り高める：新社会人基礎力109
15回目	後期振り返り
準備学習 時間外学習	学習プリントの振り返り(レポート・アンケートなど)・・・・次の時間までに提出。 進路計画の作成。 イベント計画の作成。
評価方法	授業態度：40% 毎時間のプリント授業内評価として課題の提出と評価：60%

【使用教科書・教材・参考書】

Hand-book of Life Style
2023年度版　新社会人基礎力109

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動画制作 （ Video Production ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	坂井　隆仁
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 1時限

【授業の学習内容】

商用利用のSNSで使う動画を自分で編集し投稿する。
パソコンの実務的な使い方を学習していき、授業終了時には、自分のパソコンを自由に使いこなせる様に授業を進めていく。

※担当教員実務経験：婚礼での映像制作に10年携わり、webページ作成からカフェ経営まで幅広く従事。

【到達目標】

パソコン内データの取り扱い方が分かり、自分で撮影した動画を編集しSNSに投稿することができる様になる。
また、商業利用のSNSで注意する事や、ホームページの作成活用方法等もわかるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：自己紹介、USBメモリの使い方がわかる。ショートカットを使えるようになる。 タイピング練習をしてキーボードに慣れる。
2回目	画像加工：remove bgを使い画像加工をし、自由に使える様になる。
3回目	PowerPoint課題：２人チームで、おとぎ話のスライド作成。画像挿入ができる様になる。
4回目	PowerPoint課題：２人チームで、おとぎ話のスライド作成。文字入力装飾ができる様になる。
5回目	PowerPoint課題：２人チームで、おとぎ話のスライド作成。アニメーション、画面切り替えができる様になる。仕上げ
6回目	PowerPoint課題：２人チームで、おとぎ話のスライド作成。上映会を実施します。
7回目	動画編集：環境整備、静止画を使った動画作成、アニメーションを使える様になる。
8回目	動画編集：動画を使った動画作成、カット、文字入れができる様になる。書き出しできる様になる。
9回目	動画課題①：1分間の動画作成（テーマ：各自で決めてもらいます。）
10回目	動画上映会：各自作成した動画の上映会をします。なぜこのテーマにしたのか、こだわりポイントをみなさんに解説してもらいます。
11回目	SNS（インスタ）への投稿、商業利用時の注意点と著作権について、他SNSでのトラブル紹介
12回目	撮影練習：撮影する上での注意点、テクニックを説明したのち、各自撮影体験をする。
13回目	動画課題②-1：1分間の動画作成（テーマ：動物紹介）今まで使った技を使い自由に動画作成
14回目	動画課題②-2：1分間の動画作成（テーマ：動物紹介）今まで使った技を使い自由に動画作成
15回目	動画上映会：各自作成した動画の上映会をしSNSに投稿
準備学習 時間外学習	身近にある物にコレはどの様に作っているのか興味を持ち、 そして自分だったらこんな風に作るのになと、考える事をしてみて欲しい。
評価方法	授業内での傾聴力・発言力20%　・期末試験（作品評価）　80%

【使用教科書・教材・参考書】

データ配布

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for Next Generation）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会に反映していくか、
またワークショップ（workshop）を用い読み解く力をつける。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に9のカテゴリーで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。
各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ（workshop）を通して理解を深めるようにする。
また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1（地球温暖化）海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題2（海洋と生物多様性）仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3（オゾン層の破壊）
5回目	世界の環境問題4（海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題）
6回目	環境問題の啓発者の探る1．Severn Cullis-Suzuki　リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2．　世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	職場を取り巻く環境問題　　日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」
9回目	環境教育における環境倫理　酸性雨・海洋汚染　マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理　有害廃棄物の越境移動　マイクロプラスチック
11回目	環境教育における環境倫理　野生生物種の減少1
12回目	環境教育における環境倫理　野生生物種の減少2
13回目	環境教育における環境倫理　ジレンマからトリレンマ　砂漠化　異常気象
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ　エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:80% 発表:10% 受講出席率:10%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for Next Generation）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解（SDGs17のターゲット目標）その解決に向けて主に社会や職場で環境教育に関する話ができるように現場を念頭に置いて授業を行う。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

環境問題の概略を知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に職場中で環境教育を実践できるようになると同時に、社会での教育活動の中でもどのような活動ができるか考えることができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的　ESD　SDGs
2回目	世界の環境問題1（地球温暖化、酸性雨など）
3回目	世界の環境問題2（オゾン層の破壊、生物多様性減少など）
4回目	世界の環境問題3（エネルギー問題、人口・食糧問題）
5回目	環境教育のパイオニアを知る
6回目	環境系ゲーム　ESD　SDGs
7回目	世界の環境教育の流れ　環境系ゲーム　ESD　SDGs
8回目	環境教育における環境倫理 CSR CSV（企業の社会的責任）
9回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」と世界の動きSDGs17のターゲット目標
10回目	就職現場での環境教育の位置づけと課題　「観光地の環境問題」
11回目	就職現場の中での実践1（全体計画、年間指導計画、（1））
12回目	就職現場の中での実践2（全体計画、年間指導計画、（2））
13回目	現場での環境問題と私たちにできること　ISO　ルール取り決め
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:70% 発表:15% 受講出席率:15%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。
また授業理解のためのミニテストを行う。
毎回動画やニュースソース題材に選ぶ
アクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)等を用いる。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物関連法規 (Related Laws and Regulation)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	津田　堅之介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 3時限

【授業の学習内容】

法律というと難解なイメージがあると思うので、講師作成の資料と一般のニュースでも取り上げられた事例、そして取り上げられた番組の映像を基に分かりやすく解説する。そして毎年現状に合わせて変更が行われる場合があるため、今年の最新の内容を伝えるのみならず、今後も自分で最新情報が得られる方法を理解できるよう指導する。

※担当教員実務経験：大分県ニホンカモシカ調査員。野崎島ビジターセンター非常勤学芸員。日本獣医生命科学大学在学中に自然環境研究センターでニホンザル及びニホンカモシカ生態調査に参加。その後、栗林慧自然科学写真研究所アシスタントを経て野生動物保護管理事務所（WMO）委託研究員として栃木県足尾、屋久島、五島列島福江島で捕獲及びテレメトリー法による哺乳類生態調査に参加。哺乳・両生・爬虫類及びクマタカをはじめとする猛禽類の撮影・生態調査に従事

【到達目標】

動植物飼育のプロフェッショナルとして業務上動物とかかわっていくためのみならず、実生活を送る上においても必要不可欠な動物に関連する法律の知識を身につけ、動植物の飼育管理と販売を行う際に特に必要な、動物愛護管理法、外来生物管理法そして国際取引を行うために必要なワシントン条約、国内では根絶されたものの輸入された動物から発症する恐れのある狂犬病に関して理解し、万が一の場合でも冷静沈着に対応出来るよう、そして自分自身が法を犯さないことはもちろんのこと、周りの一般の方々にも分かりやすく法律を理解し、説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	これから学んでいく法律と、動物の飼育や野生動物と接する上でなぜ法律を定める必要があるのかを、DVDと最近話題のニュースを見ながら解説
2回目	後のコマの野生動物管理学と連続で和歌山県太地町で行われているイルカ漁を取り上げた「クジラと生きる」と、アメリカの環境保護団体が同じ場所で撮影し作った映画「The Cove」を鑑賞し、日本人と欧米人の自然観の違いについて考えてもらう
3回目	野生動物とかかわり、動物を飼育する際に関係する法律総論
4回目	動物の愛護と管理に関する法律、基本原則から動物取扱業者に関する解説まで
5回目	動物の愛護と管理に関する法律、特定動物と改正された最新情報と違反実例
6回目	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律が定められた理由を理解するため、現在各地での外来種による影響を紹介した番組のDVDを鑑賞
7回目	中間テストと解説
8回目	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律解説Part1
9回目	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律解説Part2. 罰則と飼育が許可される例外と手続きの方法
10回目	特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律解説Part3. アライグマを始めとする駆除を行う場合のルールについて動画を見ながら解説
11回目	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する（ワシントン）条約」についてPart1
12回目	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する（ワシントン）条約」についてPart2
13回目	狂犬病予防法について。患者の記録動画を見て、海外に出かけた時の注意点と国内で確認された場合の対応を解説
14回目	前期末テスト及び振り返り
15回目	前期末テスト返却と解説
準備学習 時間外学習	テキスト資料や授業内容をノートにまとめ、授業後に読み直し復習すること。鳥獣保護法違反など一般の方々には意外と浸透していなかったり、法律に対して反発を覚える人もいるため、普段から動物に関連する法律に関する事件の情報を集め、まず自分が理解して一般の方々に分かりやすく解説出来るように普段から興味を持って欲しい。特にショップや国際取引を業務として行う人には絶対に必要な知識であり、種の保存法や外来生物防除法は法人が違反すると罰金が一億円と高額のため、自分の職場を潰すことになることに繋がることもあることを理解し、身近なところで違反していないかも考えて欲しい。
評価方法	中間評価試験:20% 期末評価試験:70% 授業内評価（傾聴力・発言力）:10%

【使用教科書・教材・参考書】

津田が撮影した写真や動画、解説で出演した番組と講義の資料として収集してきた動画のDVDを映写。
最新記事も入れながら自身で作成したテキスト資料
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新飼育ハンドブック動物園編③」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	野生動物管理学 （ Wild Animal Managemennt ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	津田　堅之介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 4時限

【授業の学習内容】

基本的に講師が訪れた国内外のフィールドで実際に体験した内容を、講師が撮影した写真と取材に参加したり講義資料として毎週でめると集め続けてきた動画を見ながら解説。資料は、毎年フィールドで見聞きした最新情報や、話題となった実例を元に作った最新の資料を毎週配布し、感想や自分ならどう対応するかなどの意見も引き出しながら進めていく。

※担当教員実務経験：大分県ニホンカモシカ調査員。野崎島ビジターセンター非常勤学芸員。日本獣医生命科学大学在学中に自然環境研究センターでニホンザル及びニホンカモシカ生態調査に参加。その後、栗林慧自然科学写真研究所アシスタントを経て野生動物保護管理事務所（WMO）委託研究員として栃木県足尾、屋久島、五島列島福江島で捕獲及びテレメトリー法による哺乳類生態調査に参加。哺乳・両生・爬虫類及びクマタカをはじめとする猛禽類の撮影・生態調査に従事

【到達目標】

職場において来訪者を楽しませ自分のファンを増やせられるように、経済動物に関しては生産性があげられるよう、どこに行っても通用する即戦力となる知識や、子供から大人までの幅広い層に分かりやすく解説できるようになる。 卒業後も、日進月歩の飼育技術革新に絶えずアンテナを張り巡らせ、一生学び続けようという意識を持った、動物飼育の一流のプロフェッショナルであり続けようという自覚できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	シラバスと講義資料の写真、そして津田の今までの仕事を紹介するテレビ番組を見ながら一年の流れを解説
2回目	1限目の動物関連法規と連続で、和歌山県太地町で行われているイルカ漁を取り上げた「クジラと生きる」と、アメリカの環境保護団体が同じ場所で撮影し作った映画「The Cove」を鑑賞し、日本人と欧米人の】自然観の違いについて考えてもらいます
3回目	人間と生態系の関り合いPart1。人を利用して生きている動物を写真と津田出演のテレビ番組で解説。
4回目	人間と生態系の関り合いPart2。人の生活に役に立っている動物。野生動物になぜ餌付けを行ってはいけないのか
5回目	野生動物とどう接するべきなのか。人馴れしたため射殺されてしまったヒグマや、減りつつあるニホンミツバチ等を例に考える
6回目	魚から哺乳類まで野生動物の生態調査と、展示するための捕獲と手続き及び飼育方法について
7回目	中間テストと解説
8回目	バードウォッチングのコツとマナー、野鳥の生態と観察する際に必要な機材について
9回目	自然観察会の際に気を付けるべき、野外の危険な生物とフィールドワークの際に危険を回避するテクニックについて
10回目	津田が取材に同行し、自然な状態で世界で初めての撮影に成功したヘラクレスオオカブトのNHK番組DVDを鑑賞し解説
11回目	飼育中のヘラクレスオオカブト成虫と幼虫を見ながら、飼育と繁殖のテクニックについて解説
12回目	津田が撮影に参加した東宝映画「日本列島いきものたちの物語」を鑑賞
13回目	エクアドルの動植物と保護管理の様子を、ユネスコ世界自然遺産第一号のガラパゴス諸島を中心に解説
14回目	前期末テスト及び振り返り
15回目	前期末テスト返却と解説
準備学習 時間外学習	テキスト資料や授業内容をノートにまとめ、授業後に読み直し復習すること。バードウォッチングや野生動物が観察できるポイントを紹介しようと思うので、研修中飼育されている鳥獣を観察したり、休みの時は探鳥会に参加したり野生動物を観察しに出かけたりと、積極的に野生鳥獣の生態を学んで欲しい。そうすることで、将来自分が飼育担当することになるかもしれない動物の飼育管理の知識と、ストレスを与えず長生きして来場者を楽しませてもらえるヒントが得られる。
評価方法	中間評価試験:20% 期末評価試験:70% 授業内評価（傾聴力・発言力）:10%

【使用教科書・教材・参考書】

実際に現地へ出かけ撮影した写真や、テレビ番組の取材に参加して放映された番組、講義の資料として収集してきた動画のDVDを映写。
毎週作成するテキスト資料。
フィールドで拾い制作した標本や、骨に角に糞などのフィールドサイン

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	野生動物管理学 （ Wild Animal Managemennt ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	津田　堅之介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 4時限

【授業の学習内容】

基本的に講師が訪れた国内外のフィールドで実際に体験した内容を、講師が撮影した写真と取材に参加したり講義資料として最適であると集め続けてきた動画を見ながら解説。資料は、毎年フィールドで見聞きした最新情報や、話題となった実例を元に作った最新の資料を毎週配布し、感想や自分ならどう対応するかなどの意見も引き出しながら進めていく。

※担当教員実務経験：大分県ニホンカモシカ調査員。野崎島ビジターセンター非常勤学芸員。日本獣医生命科学大学在学中に自然環境研究センターでニホンザル及びニホンカモシカ生態調査に参加。その後、栗林慧自然科学写真研究所アシスタントを経て野生動物保護管理事務所（WMO）委託研究員として栃木県足尾、屋久島、五島列島福江島で捕獲及びテレメトリー法による哺乳類生態調査に参加。哺乳・両生・爬虫類及びクマタカをはじめとする猛禽類の撮影・生態調査に従事

【到達目標】

職場において来訪者を楽しませ自分のファンを増やせられるように、経済動物に関しては生産性があげられるよう、どこに行っても通用する即戦力となる知識や、子供から大人までの幅広い層に分かりやすく解説できるようになる。 卒業後も、日進月歩の飼育技術革新に絶えずアンテナを張り巡らせ、一生学び続けようという意識を持った、動物飼育の一流のプロフェッショナルであり続けようという自覚できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ニホンジカの野生での生態と反芻獣ならではの気を付けるべき飼育管理
2回目	猛禽類の人工孵化から飼育管理 タカやハヤブサ類の調教とフリーフライトと狩り
3回目	ニホンザルの野生での生態を志賀高原で撮影されたNHKの番組を見ながら解説
4回目	ニホンザルの野生での生態と飼育上気を付けるべき点を津田撮影の写真を見ながら解説
5回目	出水のツルの生態と保護管理の歴史パート1 出水のツルを紹介した映像を見ながら解説
6回目	出水のツルの生態と保護管理の歴史パート2 津田撮影の写真と出水市史を資料に解説
7回目	中間テストと解説
8回目	頭骨を始めとする標本作りと皮鞣しの方法
9回目	ツシマヤマネコの生態と保護管理パート1　対馬の不思議な自然環境と生息する動物
10回目	ツシマヤマネコの生態と保護管理パート2 ヤマネコの習性と食性飼育管理上の注意点
11回目	中国の野生トキの生態と保護管理 中国の保護センターで撮影した写真を見ながら解説
12回目	ツキノワグマ親子の一年を記録した番組と東北の人食いグマの特集を鑑賞 クマの素晴らしさと怖さを知る
13回目	ネパールの自然と野生動物の生態および保護管理
14回目	後期末テスト及び振り返り
15回目	後期末テスト返却し解説
準備学習 時間外学習	テキスト資料や授業内容をノートにまとめ、授業後に読み直し復習すること。バードウォッチングや野生動物が観察できるポイントを紹介しようと思うので、研修中飼育されている鳥獣を観察したり、休みの時は探鳥会に参加したり野生動物を観察しに出かけたりと、積極的に野生鳥獣の生態を学んで欲しい。そうすることで、将来自分が飼育担当することになるかもしれない動物の飼育管理の知識と、ストレスを与えず長生きして来場者を楽しませてもらえるヒントが得られる。
評価方法	中間評価試験:20% 期末評価試験:70% 授業内評価（傾聴力・発言力）:10%

【使用教科書・教材・参考書】

実際に現地へ出かけ撮影した写真や、テレビ番組の取材に参加して放映された番組、講義の資料として収集してきた動画のDVDを映写。
毎週作成するテキスト資料。
フィールドで拾い制作した標本や、骨に角に糞などのフィールドサイン

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	小動物飼育演習 Ⅲ （Practical Small Animal Care Ⅲ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

小動物を中心に実際の清掃から給餌・健康管理まで基本的な飼養管理方法を学び、指導ができるようになる。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・飼養管理：各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
・掃除：限られた時間内での素早く丁寧な掃除ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の流れ、注意点等説明
2回目	飼育管理の実践①
3回目	飼育管理の実践①
4回目	飼育管理の実践①
5回目	飼育管理の実践①
6回目	飼育管理の実践②
7回目	飼育管理の実践②
8回目	飼育管理の実践②
9回目	飼育管理の実践②
10回目	飼育管理の実践③
11回目	飼育管理の実践③
12回目	飼育管理の実践③
13回目	飼育管理の実践③
14回目	研修ノート提出
15回目	前期振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80% 研修ノート提出20%

【使用教科書・教材・参考書】

配布資料
参考書
・滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	小動物飼育演習 Ⅲ （Practical Small Animal Care Ⅲ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

小動物を中心に実際の清掃から給餌・健康管理まで基本的な飼養管理方法を学び、指導ができるようになる。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・飼養管理：各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
・掃除：限られた時間内での素早く丁寧な掃除ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	前期振り返り、注意点等説明
2回目	飼育管理の実践④
3回目	飼育管理の実践④
4回目	飼育管理の実践④
5回目	飼育管理の実践④
6回目	飼育管理の実践⑤
7回目	飼育管理の実践⑤
8回目	飼育管理の実践⑤
9回目	飼育管理の実践⑤
10回目	飼育管理の実践⑥
11回目	飼育管理の実践⑥
12回目	飼育管理の実践⑥
13回目	飼育管理の実践⑥
14回目	研修ノート提出
15回目	後期振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80% 研修ノート提出20%

【使用教科書・教材・参考書】

配布資料
参考書
・滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の栄養 (Nourishment of Animal)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中本　教一
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 4時限

【授業の学習内容】

動物が必要とする栄養素と飼料に含まれる栄養素について学び、次に消化と吸収に関して動物による消化管の違いと特徴を知り、代表的な飼料の特徴を学ぶ。
続いて、飼料の組み立てに必要な知識と養分計算を学び、飼料配分に取り組む。

※担当教員実務経験：酪農大学教師、肉牛の肥育を経て1982年「中本乗馬倶楽部」を設立、先代オーナー、現会長。
福岡県馬術連盟副会長、日本馬術連盟公認1級審判、全国乗馬倶楽部指導員。

【到達目標】

各栄養素についてその特徴が理解できた上で、自身で飼料の組み立てに取り組めるようにその基礎となる知識と養分計算の仕方ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の概要、目的、内容の説明。(1)飼料摂取の目的
2回目	(2)体成分と栄養素　①体成分　②水
3回目	(2)体成分と栄養素　③タンパク質・必須アミノ酸
4回目	(2)体成分と栄養素　④炭水化物　⑤脂質
5回目	(3)体成分と栄養素　⑥ビタミン(脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン)
6回目	(4)体成分と栄養素　⑥ビタミン
7回目	中間評価及び振り返り　(2)体成分と栄養素　⑦ミネラル(多量元素と微量元素)
8回目	(2)体成分と栄養素　⑦ミネラル
9回目	(3)栄養と飼料　①各家畜が好む飼料と消化管の特徴
10回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収
11回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(消化管の構造と役割：単胃動物)
12回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(消化酵素)
13回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(反芻動物・鶏の消化管の構造と役割)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　①飼料成分による栄養価とその特徴
準備学習 時間外学習	授業の最初に前回の振り返りをする為、各自ノートの読み返しをし、復習に努めること。
評価方法	筆記試験(80%)、授業内評価(傾聴力・発言力)(20%)

【使用教科書・教材・参考書】

参考プリント、プロジェクター
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 飼料」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の栄養 (Nourishment of Animal)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中本　教一
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日 4時限

【授業の学習内容】

動物が必要とする栄養素と飼料に含まれる栄養素について学び、次に消化と吸収に関して動物による消化管の違いと特徴を知り、代表的な飼料の特徴を学ぶ。
続いて、飼料の組み立てに必要な知識と養分計算を学び、飼料配分に取り組む。

※担当教員実務経験：酪農大学教師、肉牛の肥育を経て1982年「中本乗馬倶楽部」を設立、先代オーナー、現会長。
福岡県馬術連盟副会長、日本馬術連盟公認1級審判、全国乗馬倶楽部指導員。

【到達目標】

各栄養素についてその特徴が理解できた上で、自身で飼料の組み立てに取り組めるようにその基礎となる知識と養分計算の仕方ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　②栄養価の表し方(タンパク質、エネルギー)
2回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　③飼料と特徴(粗飼料と濃厚飼料)
3回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　④粗飼料の種類と特徴(牧草色、野草類、青刈作物他)
4回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑤粗飼料の貯蔵方法(乾草、サイレージ)
5回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・穀類、大麦、トウモロコシ)
6回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・穀類、エン麦、小麦、米、ヌカ、フスマ類)
7回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・油粕類、製造粕類、動物質飼料他)
8回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・配合飼料)　⑦飼料のスライド説明
9回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　①飼養標準　②栄養価と単位　③給与量
10回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　④豚の飼料給与を考える(練習例：繁殖育成豚)
11回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　⑤馬の飼料給与を考える(給与日量、飼料内容)
12回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　⑤馬の飼料給与を考える(例題問題：育成馬)
13回目	(5)飼料の配合内容と給与量を与える　⑤馬の飼料給与を考える(成長後の馬の場合、例題問題)
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめの話
準備学習 時間外学習	授業の最初に前回の振り返りをする為、各自ノートの読み返しをし、復習に努めること。
評価方法	筆記試験（80%）、授業内評価（傾聴力・発言力）（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

参考プリント、プロジェクター
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 飼料」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	魚類学実験 （ Laboratory of Fishes ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 4・5時限

【授業の学習内容】

1. 講師採集生物を用いた実習・演習と板書講義を平行して実施。講義は1年次「魚類研究」の復習を含む。
2. 実習・作業は、個人・グループ単位での細かい指導と繰り返し（慣れる）が基本。最後までやり遂げるコトを良しとする。
3. 学生の行動が落ち着いた時点（安全性）で、徒歩で行ける博多湾にて野外実習を行う。
4. 「水生生物研究」と同様にメモの習慣を付けさせたいため、ノートチェックは基本的に毎回実施。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類検索図鑑を7割程度使いこなすことができる。
②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。
③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。
④目的に応じた解剖の段取りができる。
⑤目的・対象魚類に適合した標本作りが6割程度説明できる。

授業計画・内容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級　その1 （プロポーションと部位計測） ③竹ピンセットの作成
2回目	①魚類検索スケッチ中級　その2 （細部スケッチ・計数データ記入） ③竹ピンセットの作成
3回目	②④⑤透明骨格標本　その1（理論・行程・薬品解説）　＋　「1・2回目」の仕上げ
4回目	②④魚類解剖の基本　その1 （主目的を絞る⇒準備⇒実施⇒修正⇒まとめ⇒片付け） ■⑤透明骨格標本作業継続
5回目	③②④骨格図の模写と魚類の重要な骨摘出（耳石・肩甲骨・烏口骨） ■⑤透明骨格標本作業継続
6回目	①河川地点採集サンプル総合分類河川中上流　その1 （魚類生息環境・出現種一覧表） ■⑤透明骨格標本作業継続
7回目	■評価試験および振り返り　＋　ここまでの中途作業の仕上げ
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習　その1（イベント企画者の立場　＋　現場ロープワーク）
9回目	⑤魚類剥製　（概説・作業）　＋　①検索用サンプルの展翅（ホルマリン標本用として）
10回目	②③後期に向けた魚類アート入門（毛筆画、アクリルペイント、米粉粘土）
11回目	②④魚類解剖　その2（目的・準備・麻酔・実施・処理・まとめ・展開・片付け）
12回目	①河川地点採集サンプル総合分類　2　河口域 （魚類生息環境・出現種一覧表の作成）
13回目	②④大型魚類胃内容分析
14回目	■期末試験　＋　ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索　一全種の同定一　東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート点　50%

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書：教科書はナシ。レジュメおよび資料を配布。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類学実験 (Laboratory of Fishes)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 4・5時限

【授業の学習内容】

1. 前期同様に採集および購入魚類を用いた実習と板書講義の様式とするが、作業の割合を大きくする。
2. 同じ場所での別作業となるので、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取力」を指導する。
3. 実験・作品制作の作業は、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。
4. 魚類から派生する「モノづくり」は、職場でのイベント等における発想・企画・経費計算に役立てたい。
5. 研修・早期就職で授業参加困難な学生は、前倒しで計画を立て作品提出へと指導して行く。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話すことができる。
②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している。
③様々な製品を見て「用」「強」「美」の観点で評価できるようになる。
④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる。
⑤実験や作業で使う工具・用具を安全に使いメンテナンスがそこそこできる。

授業計画・内容	
1回目	①②④⑤魚類麻酔薬・魚病薬の研究 （市販薬品の検討と個人用自作）
2回目	④果物アート （雨プログラムの組み方） ■米粉粘土アート 継続
3回目	①②③アクリル加工 （透明骨格標本・剥製ケース・野外観察写真撮影用ケースおよび小型水槽） ■米粉粘土アート 継続
4回目	①②透明骨格標本 2 （継続作業のまとめとして）
5回目	①②③⑤塗装の基本知識と実践作業 （水性・油性・漆） ■米粉粘土アート 継続
6回目	①②④⑤秋の釣り大会 in 博多埠頭 （学生企画）
7回目	①④発泡スチロール加工 （多用途） ＋ 竹素材の魚類ハンドリング用品加工（小型のタモ網ほか）
8回目	①魚類地点調査サンプル総合分類（1年次の「魚類研究」総まとめ）
9回目	①④ルアー製作 ■米粉粘土アート 継続
10回目	①②④魚類デザインのパンケーキ （食育イベントのバリエーションとして）＋ 燻製（キャンプメニューとして） ■ルアー製作 継続
11回目	①②③④魚類注連縄づくり （圃場生物環境・藁素材・伝統文化） ■ルアー製作 継続
12回目	①②④UVレジン （ 義眼・魚類部位を封入したアクセサリー）と剥製
13回目	■作品提出 追い込み （間に合いそうにない学生の分まで協力して作成）
14回目	■作品提出 受付締め切り （早期就職の学生の分まで協力して作成）
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除 （感謝をこめて楽しそうに掃除をする）
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索 ―全種の同定― 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●作品提出 50% ●ノート点 50%

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書：特にナシ。レジュメおよび資料を配布。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水生生物飼育管理Ⅲ （ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 2・3時限

【授業の学習内容】

2年間で学んだ淡水及び海水に生息する生物の様々な管理システムを発揮すると共に、水槽の企画やレイアウトの立案も行う。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

相手の要望に合わせて水槽のレイアウトができる。
チームで水槽の管理ができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明、前期の流れと設置場所確認
2回目	水槽企画案
3回目	プレゼンテーション作成・練習①
4回目	プレゼンテーション作成・練習②
5回目	現地でのプレゼンテーション
6回目	フィードバック、必要機材の選定、立ち上げ・メンテナンス時の注意点について
7回目	水槽立ち上げ
8回目	メンテナンス実習①
9回目	メンテナンス実習②
10回目	メンテナンス実習③
11回目	メンテナンス実習④
12回目	メンテナンス実習⑤
13回目	メンテナンス実習⑥
14回目	水槽撤去
15回目	振り返り、今後の課題
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。校内の水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、それらを十分理解できるよう常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスも行う。 可能な限りショップ・水族館の見学を行ない、設備及び生体をよく観察すること。
評価方法	■授業内評価：80% ■授業出席率：20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室水槽

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	水生生物飼育管理Ⅲ （ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 2・3時限

【授業の学習内容】

2年間で学んだ淡水及び海水に生息する生物の様々な管理システムを発揮すると共に、水槽の企画やレイアウトの立案も行う。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

相手の要望に合わせて水槽のレイアウトができる。
チームで水槽の管理ができる。

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り
2回目	水槽企画案
3回目	プレゼンテーション作成・練習①
4回目	プレゼンテーション作成・練習②
5回目	現地でのプレゼンテーション
6回目	フィードバック、必要機材の選定
7回目	水槽立ち上げ
8回目	メンテナンス実習①
9回目	メンテナンス実習②
10回目	メンテナンス実習③
11回目	メンテナンス実習④
12回目	メンテナンス実習⑤
13回目	メンテナンス実習⑥
14回目	水槽撤去
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。校内の水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、それらを十分理解できるよう常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスも行う。 可能な限りショップ・水族館の見学を行ない、設備及び生体をよく観察すること。
評価方法	■授業内評価：80% ■授業出席率：20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室水槽

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	エンタメ Ⅲ （ Entertainment Planning and Production Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3時限

【授業の学習内容】

2年間学んだ「音響・映像・照明」の基本技術のなかで、現場における映像音響を使用した提案ができるようになる。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

施設の問題点を把握でき、それに対してコストに見合う提案ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	校外演習(ららぽーと「VS PARK」)
2回目	校外演習(ららぽーと「VS PARK」)
3回目	校外演習(ららぽーと「VS PARK」)
4回目	上記のまとめ研修各施設解説
5回目	自分が一番良いと思ったコンテンツの発表(仕組みの説明と何がどう良かったか)
6回目	関西宿泊演習(ニフレル)
7回目	関西宿泊演習(ニフレル)
8回目	関西宿泊演習(万博記念公園)
9回目	関西宿泊演習(海遊館)
10回目	関西宿泊演習(海遊館)
11回目	関西宿泊演習(海遊館)
12回目	同上解説
13回目	各自コンテンツについての解説資料作成
14回目	同上発表
15回目	前期施設見学の再まとめ
準備学習 時間外学習	いろいろな施設においてどのように映像展示や音響を使った仕組みが使われているかを事前に学習すること。
評価方法	授業態度:50% 知識習得度:50%

【使用教科書・教材・参考書】

事例写真等

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	エンタメⅢ （ Entertainment Planning and Production Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3時限

【授業の学習内容】

実務に即したエンターテイメント演出に対して2年間学んだ「音響・映像・照明」の基本技術を活かし、よりエンタメよりな企画・立案・運営までを行う。
少し高度なマッピングや双方向型コンテンツの見学と実際の構成学習。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

双方向性コンテンツの提案やプロジェクションマッピングの仕組みの理解、簡単な提案ができようになる。

授業計画・内容	
1回目	iPhoneをつかった効果的写真の撮り方
2回目	校外演習(いのちのたび博物館)
3回目	校外演習(いのちのたび博物館/北九州市科学館)
4回目	校外演習(北九州市科学館)
5回目	同上内にて写真コンテスト集計と発表
6回目	今後の動物園のあり方について
7回目	校外演習(福岡市動植物園)
8回目	校外演習(福岡市動植物園)
9回目	校外演習(福岡市動植物園)
10回目	同上開設と提案のまとめ
11回目	宿泊演習(イオワールド)
12回目	宿泊演習(イオワールド)
13回目	宿泊演習(イオワールド)
14回目	同上施設展示の解説と提案のまとめ課題提出
15回目	エンタメⅢ総括
準備学習 時間外学習	日ごろ街中で目に付くエンタメコンテンツについて常に構成を意識して見る癖をつけること。
評価方法	授業態度:50% 知識習得度:50%

【使用教科書・教材・参考書】

事例写真等

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ECOマネジメント （ECO Management）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

入学以来身に付けた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

卒業研究発表にて自身の取り組んだ成果を発表できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	過去の先輩方の事例検証 ① ～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	テーマの洗い出し ② ～企業が抱える問題点の洗い出しと選択～
3回目	テーマに沿ってプロジェクト内容を計画
4回目	企業側にテーマの提案
5回目	テーマの決定
6回目	実践学習① ～行うテーマの現状把握～
7回目	実践学習① ～行うテーマの現状把握～
8回目	実践学習① ～テーマに沿って仮説と実証実験～
9回目	実践学習② ～途中経過の報告～
10回目	実践学習③ ～具体的内容の提案と協議～
11回目	実践学習③ ～具体的内容の提案と協議～
12回目	実践学習③ ～具体的内容と協議～
13回目	実践学習③ ～提案内容の吟味～
14回目	実践学習④ ～途中経過の報告～
15回目	前期振り返り
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ECOマネジメント （ECO Management）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐　和幸
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

入学以来身に付けた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。

※担当教員実務経験：水族館マリンワールドリニューアルより映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに従事。

【到達目標】

卒業研究発表にて自身の取り組んだ成果を発表できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	提案実施①　～具体提案を決定し、現場実施～
2回目	提案実施①　～具体提案を決定し、現場実施～
3回目	提案実施①　～具体提案を決定し、現場実施～
4回目	実施結果のまとめ　～提案を実施した結果の集約～
5回目	実施結果のまとめ　～提案を実施した結果の集約～
6回目	途中経過報告
7回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
8回目	発表練習②　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備③　～パワーポイント作成もしくは実技の練習～
10回目	発表準備④　～パワーポイント作成もしくは実技の練習～
11回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成もしくは実技の練習～
12回目	パワーポイント、原稿提出
13回目	リハーサル
14回目	本番・発表
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	内定者研修 （ Practicul Training ）	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授業計画・内容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む （1）
2回目	就職内定先において業務経験を積む （2）
3回目	就職内定先において業務経験を積む （3）
4回目	就職内定先において業務経験を積む （4）
5回目	就職内定先において業務経験を積む （5）
6回目	就職内定先において業務経験を積む （6）
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む （7）
9回目	就職内定先において業務経験を積む （8）
10回目	就職内定先において業務経験を積む （9）
11回目	就職内定先において業務経験を積む （10）
12回目	就職内定先において業務経験を積む （11）
13回目	就職内定先において業務経験を積む （12）
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業		(12)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える （1）
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える （2）
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える （3）
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える （4）
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える （5）
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う （1）
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う （2）
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する （1）
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する （2）
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する （3）
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する （4）
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	卒業企業課題	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
	（Practical Assignment from a Workplace）	授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	動物園＆水族館エンターテインメント専攻	実施方法	対面授業		（12）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。
プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。
実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （1）
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （2）
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （3）
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （1）
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （2）
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （3）
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （1）
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （2）
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （3）
12回目	企画したイベントの実践 （1）
13回目	企画したイベントの実践 （2）
14回目	企画したイベントの実践 （3）
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	イベントの企画・立案力：30% プレゼンテーション力：30% 実践力：40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】